

# 2025 CSR REPORT

WAKOH



## 2025 CSR REPORT

SDGsとともに進む  
和光紙器のものづくり

### NEVER STOP

EVOLVING

**イノベーション**

私たちにできること  
出前授業  
中学生職場体験

**環境×防災**  
わんボールケージ  
サーキュラーエコノミー

学生との合同勉強会  
**SDGsアワード**  
学生部門受賞

岩槻工場  
**改修工事**



## 01 TOP MESSAGE

## 企業目標

一人ひとりの積み重ねが、価値ある未来をつくる。

一人ひとりの成長を力に変え、自分にできることへの誇りを胸に、仲間を信じ支え合いながら挑戦を重ねる。

すべての部門が価値を高め合い、環境に応えるものづくりで価値ある未来をつくる。

## CONTENTS

企業目標 \_\_\_\_\_ 01

目次 \_\_\_\_\_ 01

## 01 TOP MESSAGE \_\_\_\_\_ 02

## 02 会社概要 \_\_\_\_\_ 03

## 03 経営理念とSDGsへの取り組み \_\_\_\_\_ 05

## 04 CSR基本方針 \_\_\_\_\_ 07

## 05 マテリアリティとESGの視点 \_\_\_\_\_ 08

## 06 データでみるESG \_\_\_\_\_ 14

## 07 特集:2025年活動 \_\_\_\_\_ 15

## 08 SDGsへの思い(従業員の声) \_\_\_\_\_ 19

## 和光紙器 CSR報告書

2026年2月発行

原本：代表取締役 本橋志郎

デザイン：高田きよみ

協力：和光紙器従業員

09

TOPICS 2025 \_\_\_\_\_ 21

10

受賞・認定 \_\_\_\_\_ 22

## CSRへの想いと私たちの価値観

和光紙器は、「ものづくりで進化させ続ける」をスローガンに、環境に配慮した包装資材の開発・製造を通じて、持続可能な社会の実現に貢献しています。私たちは、5つの考え方【情熱・誠意・自覚・正直・肯定】と7つの力【提案力・対応力・準備力・会話力・改善力・発想力・追求力】を大切に、「情熱をもって仕事に向き合う」ことを原点としています。やりがい、楽しさ、喜び——すべては情熱から生まれます。CSRやSDGsへの取り組みは、従業員の仕事への前向きな姿勢を育て、仕事に誇りを持てるような環境づくりにもつながっています。自分の仕事が社会の役に立っていると実感できることが、日々のやりがいや充実感にもつながっています。挑戦と変化を恐れず、想いを行動に。私たちは、現場から未来を変える力を信じています。

## 感謝を忘れず歩み続けるCSR・SDGs活動

今の和光紙器があるのは、これまで支えてくださったすべてのステークホルダーの皆さまのおかげです。その感謝の気持ちは、これからも決して忘れることはありません。私たちが取り組むCSRやSDGs活動の原点には、いつも「人への感謝」があります。

活動の始まりは、「SDGs とは何か?」という素朴な疑問からでした。知識も経験もない中、「まずはできることから」と始めた地域清掃が、地域とのつながりを生み、やがて次世代育成や防災、環境教育などへと広がっていきました。従業員の提案から生まれた活動も多く、皆で考え、行動し、少しずつ実を結んできました。段ボールケーキの寄贈や支援学校との連携、海岸清掃など、どれも「私たちにできること」から始まった小さな一歩です。その積み重ねが、和光紙器らしいCSR活動を形作っています。

これからも、支えてくださる皆さまへの感謝を忘れず、「ありがとう」を行動で伝える企業でありたい。CSRは、単なる社会貢献ではなく、私たちの存在意義を見つめ直す大切な活動だと考えています。

## 経営理念×CSR×SDGsのつながり

私たちの事業である「包装資材」は、使用後に不要となる存在です。だからこそ、製造段階から廃棄を出さず、再資源として循環させる責任があると考えています。「Polycolene®」シリーズは、100%リサイクル材を活用し、製造時に出る端材やロス材もペレット化して再利用することで、環境負荷の最小化を実現しています。さらに、従業員のアイデアから生まれた環境配慮型の担架や段ボールトレなどの展開を通じ、社会課題の解決にも取り組んでいます。また、「経

営理念」「SDGs活動」「環境への取組」を連動させ、すべての活動を同じ方向に進めることを大切にしています。

私たちがものづくりで最も重視しているのは、設備を導入することそのものではありません。設備は導入しただけでは力を発揮せず、その性能を引き出すことで真の技術力が生まれます。設備任せではなく、人の力で成熟させてこそ技術も現場も進化します。和光紙器の進化の原動力は、常に「人」にあります。

情熱を持ってものづくりに挑み、「和光紙器だからできること」を追い求める——それが、「私たち」らしさです。



代表取締役  
本橋 志郎

## サステナブル経営のビジョン

## ——サーキュラーエコノミーとともに

私が描くサステナブル経営のビジョンは、「和光紙器だからこそ実現できる価値」を追求することです。廃棄物を資源と捉え、再資源化による循環型社会の実現を目指すサーキュラーエコノミーを、製造の中心に据えています。使い捨てではなく活かし続けるという発想で、再資源の価値を高めながら、製品開発・運用のすべてにその思想を貫いています。経営理念・SDGs・環境対応を連動させ、持続可能な視点で判断と行動を進めています。ものづくりにおいては、情熱ある仕事こそが価値を生むと信じています。設備や技術も重要ですが、何より人が考え、工夫し、成長していくことこそが企業を進化させる原動力です。「私たちだからできること」と向き合い、社会に必要とされる企業として信頼を築き続けたいと考えています。従業員には、和光紙器で働くことを誇りに思ってもらいたい。その想いが、働く喜びとなり、地域や社会にも良い影響を広げていく。誰かのために、地域のために、未来のために——。

一人ひとりが自らの可能性を信じ、情熱をもって行動する。その積み重ねこそが、社会を動かし、未来を変えていく力になると私たちは信じています。

これからも和光紙器は、持続可能な社会の実現に向けて、真摯に、力強く、挑戦を続けてまいります。

2025年 和光紙器株式会社 代表取締役 本橋 志郎

# 02 会社概要

**会社名**  
和光紙器株式会社

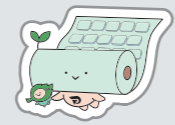
**設立**  
1962年12月

**資本金**  
3,000万円

**従業員数**  
86名(2025年12月現在)

**事業内容**

- ・環境に配慮した包装資材
- ・再生材料の開発 / 設計 / 製造 / 販売、真空成形品に関わる一貫製造 / 設計 / 販売、段ボール製品
- ・緩衝材の設計 / 製造 / 販売、一般包装資材の設計 / 販売、災害時対応商品の設計 / 製造 / 販売ならびに上記に付帯する一切の業務



ABROAD

DOMESTIC

ベトナム  
Wako&Ueno Hai Phong Co.,Ltd.

香港  
和光包装(香港)有限公司

中国  
偉諾和包装材料(上海)有限公司

新潟県  
新潟物流センター



埼玉県  
本社



埼玉県  
岩槻事業所(包装資材加工 岩槻工場)



神奈川県  
海老名事業所



三重県  
鈴鹿事業所(真空成形 鈴鹿工場)



## 2026

### サーキュラーエコノミー

## 1949

**1949**  
川口市に包装資材販売を目的とした本橋商店を設立

設立メンバー

**1962**  
本橋商店を和光紙器株式会社と改称

工場建設風景

**1962**  
本橋商店を和光紙器株式会社と改称

旧建物

**1993**  
試作体制拡充のためサンプルカッターを導入

**1994**  
環境問題に対応するためT・Pの製造販売を開始

**2000**  
IOS9001 認証取得

**2004**  
偉諾和貿易(上海)有限公司 / 偉諾和包装材料(上海)有限公司 設立  
和光包装(香港)有限公司設立  
ISO14001 認証取得

上海拠点

**2007**  
川口工場開設

鈴鹿工場

**2009**  
鈴鹿・高塚営業所を鈴鹿事業所に統合  
リサイクル資源活用のため、一貫製造鈴鹿工場開設：リサイクルシート製造用押出機導入

シート押出

**2014**  
Wako&Ueno Hai Phong Co.,Ltd. 設立

フォーム材

**2016**  
鈴鹿事業所：マシニングセンター(VCN530C-2HS)導入

マシニング

**2018**  
岩槻工場：フォーム材加工開始

**2020**  
新潟県柏崎市と災害協定締結  
【Polycolene®】商標登録

Polycolene®

**2021**  
三重県鈴鹿市 / 埼玉県川口市と防災協定締結  
真空成型機8号機(型式 CFP-6T)を導入

**2022**  
「PolycolenePP®」販売開始  
【PolycolenePP®】商標登録  
岩槻工場：減容機2,3号機導入  
岩槻工場：レーザーカッター・フォーム材プレス機導入  
和光紙器オリジナルキャラクター誕生  
鈴鹿工場：材料混合器を導入

ワコロん

**2023**  
「PolycoleneBiomass®」販売開始  
鈴鹿工場：Repro-One85ベレタイザー粉砕一体型導入  
鈴鹿工場：太陽光発電システム導入

ベレタイザー

**2024**  
偉諾和包装材料(上海)有限公司20周年  
岩槻工場：マルチパス方式段ボール外装箱印刷機導入  
鈴鹿工場：デジタルオンデマンド製函機導入  
鈴鹿工場：最新型特注インライン式真空成形機導入

岩槻工場

**2025**  
WUHP社  
「2024年FDI優良企業TOP20」選出  
Newsweek日本版SDGsアワード学生部門受賞  
WUHP社設立10周年記念式典  
EXPO2025大阪・関西万博「間伐材ベンチプロジェクト」協賛  
岩槻事業所：最新サンプルカッター導入  
「未来(みら)くるワーク体験」実施  
PolycolenePP® II ReBand販売開始  
鈴鹿工場：最新プレス機2台導入  
川口市に「わんボールケージ」寄贈及び販売開始  
埼玉県春日部市内牧小学校で出前授業  
鈴鹿：特別支援学校職場体験実施  
岩槻事業所：太陽光発電システム導入・外構工事完成

### 国内拠点拡大期

### 海外拠点拡大期

# 経営理念とSDGsへの取り組み

## 地域

私たちは健全な事業発展を通じて社会に貢献し、企業の社会的責務を果たします。

- 3 持続可能な社会を築く: 私たちができる「衣」「食」でつながる活動を推進します。
- 4 質の高い教育をみんなに: 私たちができる次世代教育につながる活動を企業内外共に行います。
- 11 持続可能な都市を築く: 地域の支援学校へ、和光紙器だから出来る事を見つけ協力していきます。
- 11 持続可能な都市を築く: 地域クリーン活動を全ての拠点で持続し続けます。
- 11 持続可能な都市を築く: もしもの時の災害対応商品の開発を止めることなく進めます。

## 環境

私たちは地球環境の調和を図り広く社会に貢献します。

- 7 持続可能なエネルギー: 環境配慮型商品ポリエコレン®シリーズを通じて「廃棄物」から「再資源」に転換させます。
- 12 持続可能な消費と生産: 包装資材を通じ、省資源化、コンパクト包装化、そして環境に良い包装設計を提案します。
- 13 気候変動に具体的な対策を: 循環資材を活用するサーキュラーエコノミーに向けたものづくりと開発を進めます。
- 14 海の豊かさを守ろう: ものづくりを行う上で無駄な資源をなくし、生産効率を上げ環境に配慮していきます。
- 14 海の豊かさを守ろう: 環境に配慮した商品を扱うからこそ、定期的に環境に対する勉強会を実施します。

## 働き方

私たちの働きで豊かな価値を創出し、より良い社会を作ります。

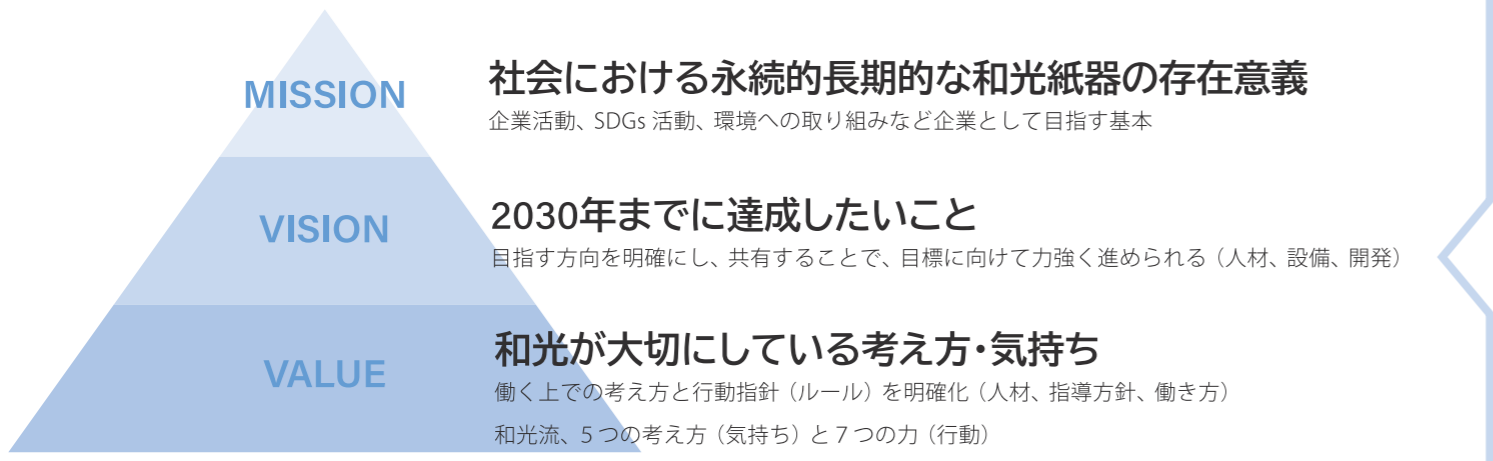
- 5 働きがい、安全: 年齢性別問わず活躍できる働きがいのある職場環境づくり。
- 8 働きがい、経済成長: 仕事と家庭の調和を図れる経営運営。
- 8 働きがい、経済成長: さまざまな分野の勉強会を取り入れ、従業員一人ひとりが講師となり教えあう機会を作ります。
- 9 産業と雇用革新: 仕事作業効率を上げる事で、一人当たりの総労働時間の削減に取り組みます。
- 10 人や国の不平等をなくそう: 多様な人材が活躍できる環境づくり。

## つながり

私たちはCSR活動を通じて社会や環境と共存し、ステークホルダーからの信頼を得られるようにします。

- 17 持続可能なパートナーシップ: サプライヤーの皆様を大切にし、お互いが尊重し合える関係を築いていきます。
- 17 持続可能なパートナーシップ: 地域の皆様へ感謝をし、関係づくりを大切にしていきます。
- 17 持続可能なパートナーシップ: 品質・環境方針は文書化し、関係関連会社及び全従業員に見える化をします。
- 17 持続可能なパートナーシップ: CSR、BCPの取組みを進めていきます。

# MISSION



# VISION

誇れる営業・対応力に進化した人材・製造・開発力で必要とされる価値ある企業であること

環境に配慮した包装資材のプロフェッショナルであること

経営		
今まで培った営業力+対応力を土台に進化した <b>製造力+開発力</b> で健全な経営運営を進めます。		
<b>営業</b>	<b>対応</b>	<b>製造</b>
プロフェッショナル集団を作り上げます。お客様に必要とされる高い専門知識を持つ人材、そして利益を常に追い求めます。	「スピード+正確+丁寧」どこにも負けない対応力。仕事を通じて感謝の気持ちを含めた対応をします。	エンジニアとして技術を磨き、生産性を高め、高品質かつ高レベルな誇れる製造工場を目指します。
<b>開発</b>	<b>人材</b>	<b>差別化</b>
自由なアイデアを大切に、お客様そして世の中が必要とする商品開発を止めることなく進めます。	人材育成には力を惜しまず、ひとりの人間として成長出来る場にします。	誇れる製造力×進化し続ける開発力=他社には出来ない情熱のつまった商品を提供します。

# VALUE

5つの考え方

- 情熱** 取り組む事に情熱を持つ。情熱のない仕事は仕事とは言わない。
- 誠意** ステークホルダーへの感謝の気持ちを持つ。
- 自覚** 仕事に対しプロフェッショナルである事。自分の役割を果たす事。
- 正直** 駆け引き上手になるよりも正直である事。
- 肯定** 常に達成できる（肯定）方法を考える。

7つの力

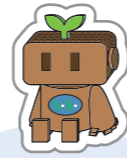
- 提案力** 相手が何を求めているのか理解し、深く考え、最適な提案が出来る力。
- 対応力** お客様・パートナー・地域との Win-Win 関係を目指せる対応力+αスピードある対応。
- 準備力** 何事もしっかり準備をしてから取り組む、進める事が出来る力。
- 会話力** 伝達力+聞く力。会話を通じて理解しあえる力。報連相が徹底できる力。
- 改善力** 1円1秒を大切に、常に上のゴールを目指し、止める事のない改善を進める力。
- 発想力** 自由な発想・制限のない発想を大切に、それを形にしていく事の出来る力。
- 追求力** 現状に満足せず、新しい方法を追い求める力。自分の能力・技術をとことん磨く力。



# 04 CSR基本方針

## 私たちのCSRの考え方

和光紙器のCSRは、「企業理念を社会の中で具体的に実行すること」です。私たちは、環境に配慮した包装資材の製造・開発を通じて、地域・環境・人々との調和を図り、持続可能な未来を実現するために、日々の事業活動そのものをCSRと捉えています。このCSR活動は、理念（ミッション）を起点とし、SDGsを指針に据えながら、ESGの視点で具体的に推進しています。そして何よりも、従業員・地域・取引先など、全てのステークホルダーへの感謝の気持ちを忘れずに、共に成長し、信頼される企業であり続けることを目指します。



理念 × SDGs × ESG  
をつなぐ  
和光紙器の行動指針

## CSR基本方針(5つの柱)

1	<b>想いをカタチにするCSR</b> — 経営理念とSDGsを連動させて —	経営理念に掲げた4つのミッション（地域・環境・価値・信頼）をSDGsの目標と重ね、事業活動そのものが社会課題解決へとつながるよう、CSRを戦略的に展開していきます。
2	<b>未来を見据えるESG戦略</b> — CSRをESG視点で整理し、未来ビジョンへ —	環境への責任（E）、社会との共創（S）、誠実な企業運営（G）という国際的なフレームワークに則り、CSR活動を明確に可視化・整理し、社内外へ継続的に発信します。
3	<b>変化に応える柔軟な力</b> — 社会の変化を前向きに受け止める —	気候変動、災害リスク、労働環境の多様化など、変化する社会課題に対して、柔軟かつ誠実に対応する体制と価値観を大切にします。
4	<b>共創と感謝の関係づくり</b> — ステークホルダーと信頼を築く —	私たちの活動は、地域・従業員・取引先・協力会社など多くの支えによって成り立っています。その一人ひとりへの感謝の気持ちを原点とし、信頼を育みながら共に価値を創り出します。
5	<b>一人ひとりが担うCSR</b> — 従業員全員が「自分ごと」として行動する —	CSRは特別なことではなく、一人ひとりの仕事や言動そのものがCSRであるという考えを共有し、全従業員が「私には何ができるか？」を考え、行動する文化を育てます。

このCSR基本方針は、和光紙器が社会から必要とされる企業であり続けるための、行動の軸であり、信頼の源泉です。私たちはこれからも、「ものづくりで進化させ続ける」未来とつながる企業であることを目指し進んでいきます。

# 05 マテリアリティとESGの視点

社会とともに生きる企業として、本当にすべきこと

私たち和光紙器は、包装資材の製造・開発を通じて、社会や環境と共に歩む企業でありたいと考えています。その中で、「今、私たちが大切にすべきこと」を見つめ直し、『会社として重点的に取り組むべき課題＝マテリアリティ（重要課題）』として整理しました。マテリアリティは、私たちが信じる企業のあり方と、地域やお客様、社会から求められる期待が重なるところにあります。それは、ものづくりの姿勢や働き方、地域との関わりなど、和光紙

器のすべての行動の「軸」です。そしてこの課題は、経営理念（ミッション）を実行するための道しるべであり、SDGsとつながり、ESGの視点から具体的な行動へと展開していくための出発点でもあります。マテリアリティを意識することで、日々の仕事社会につながっていることを実感しながら、私たちが「持続可能なものづくり」をこれからも進めていきます。

和光紙器では、マテリアリティをESGの視点で体系化することで、CSR活動を「理念の実践 × 社会課題対応 × 経営戦略」として明確に位置づけています。



今後も社会の変化やステークホルダーの声を受け止めながら、マテリアリティを軸に、より実効性のあるCSR活動を展開してまいります。



# 循環と脱炭素の ものづくりへ

循環資源・脱炭素・再エネ活用による環境負荷の最小化!



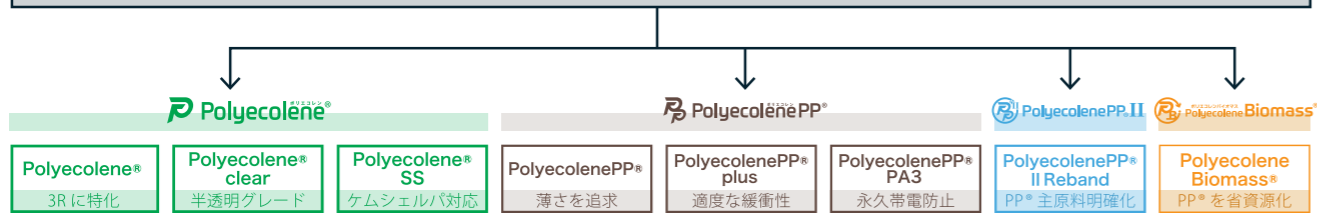
## 廃棄プラスチックの再資源化



「ポリエコレン®」シリーズは、100%リサイクル由来の素材を活用しています。製造中に発生する端材やロス材はもちろん、使用後のポリエコレン製品も回収し、再び循環資源として生まれ変わらせることが可能です。また、包装資材として使用される発泡緩衝材の加工時に発生する端材やロス材も、自社でリサイクルペレット化し、「ポリエコレン®」シリーズの原材料として再利用しています。

## Polyecolene® シリーズ

つかう側もサーキュラーエコノミーへ取り組める 無駄な資源を生まない 循環資源から生まれる環境配慮型包装資材



## CO<sub>2</sub>排出削減



「ポリエコレン®」シリーズは、100%リサイクル由来の資源を活用し、新たに採掘される化石資源を使用しないことで、原材料段階からのCO<sub>2</sub>排出抑制につなげています。また、製造工程で発生する端材やロス材も基本的に廃棄せず、すべて自社で再資源化することで、資源循環と環境負荷低減を両立したものづくりを行っています。

脱炭素に向けた取り組みとして、鈴鹿工場では太陽光発電とCO<sub>2</sub>フリー電気を導入し、製造時の実質的なCO<sub>2</sub>排出ゼロを実現しています。さらに2025年には、岩槻工場にも太陽光発電システムを導入し、和光紙器のものづくりに関するすべての工場で、再生可能エネルギーを活用した生産体制が整いました。

原材料から製造エネルギーに至るまで、CO<sub>2</sub>排出を抑える仕組みを積み重ねていくことは、事業そのものを通じた脱炭素への取り組みです。今後も、環境負荷を最小限に抑えながら、持続可能な社会に貢献するものづくりを進めてまいります。

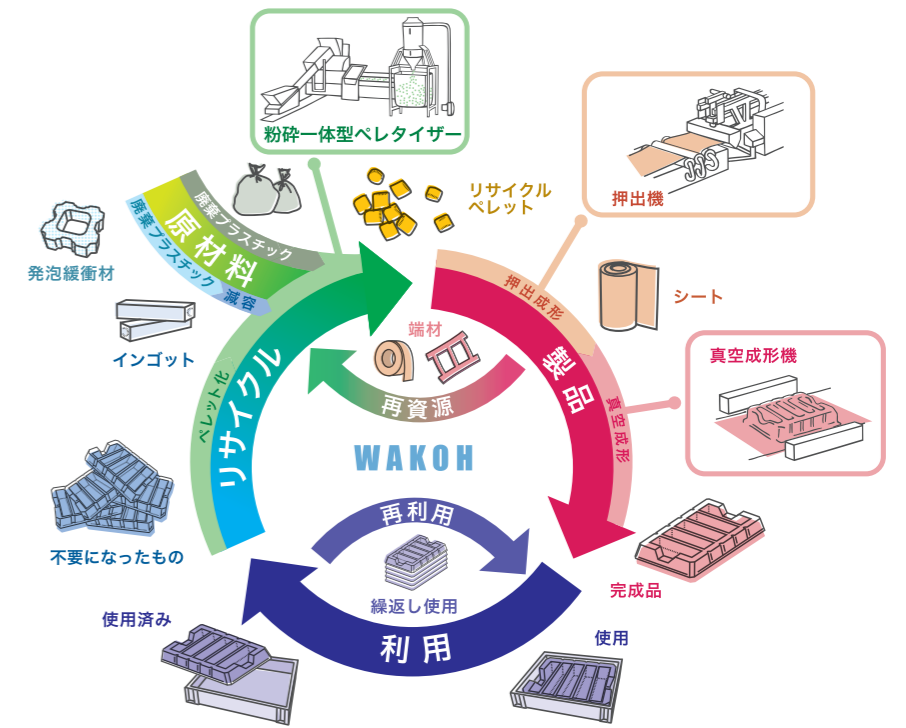
## サーキュラーエコノミー推進

和光紙器株式会社はサーキュラーエコノミー（循環型経済）を推進しています。ものづくりにおける仕組み、そして包装資材を通じて取り組めるよう設備投資、製品開発をしています。

環境配慮型包装資材「ポリエコレン®」シリーズは、製造する側・利用する側の両方がサーキュラーエコノミーに取り組める包装資材です。

製造時に発生する端材やロス材はすべて自社でリサイクルペレット化し、再び製品の原材料として活用。さらに、使用後のポリエコレン製品も回収・再資源化が可能な設計と仕組みを構築しています。

製品設計から原料、使用、回収、再生に至るまで、無駄を生まない一貫体制を整えることで、企業としても、利用者としても「資源を循環させる」行動に参加できる環境を提供しています。

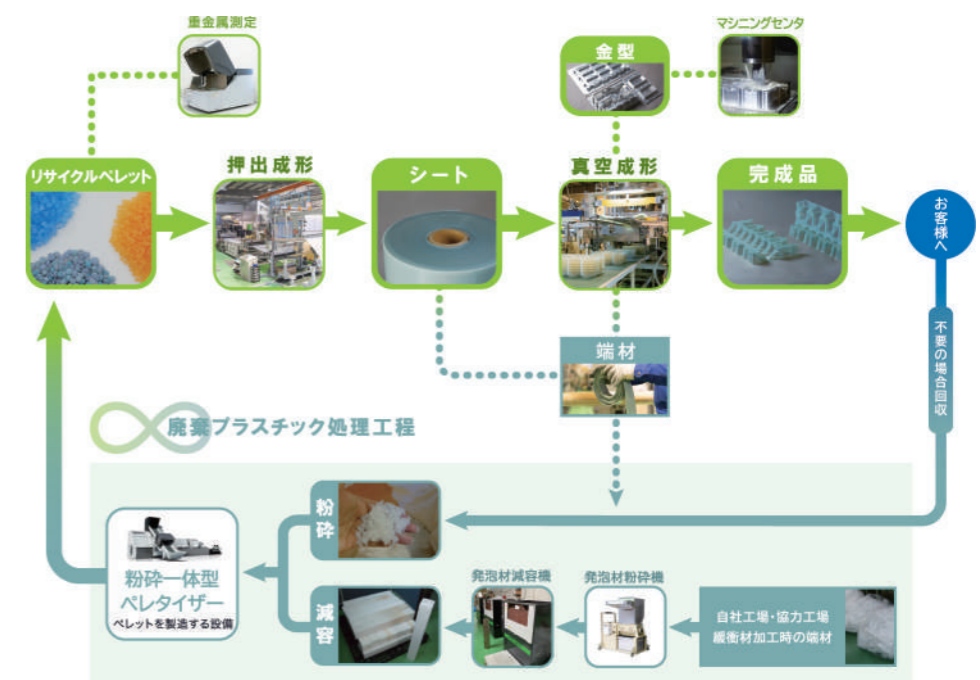


WAKOH式 サークュラーエコノミー

## 環境配慮に対する 和光紙器の基本方針

- ・持続可能なサーキュラーエコノミーを目指し、長期的なビジョンで取り組む
- ・廃棄するのではなく、今地球上に存在している資源（廃棄プラスチック）を活用していく
- ・リサイクル資源の価値を上げる（資源価値の回復）
- ・環境配慮型商品でも従来品と変わらぬコストで提供する
- ・環境に配慮した「ものづくり」を目指す
- ・私たちができることを考え、特性に合った形で進める

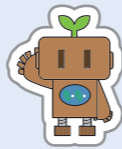
## WAKOH式 一貫製造の仕組み





# 人と地域が輝く 職場と関係づくり

多様な人が活躍できる現場づくりと、地域・次世代への貢献！

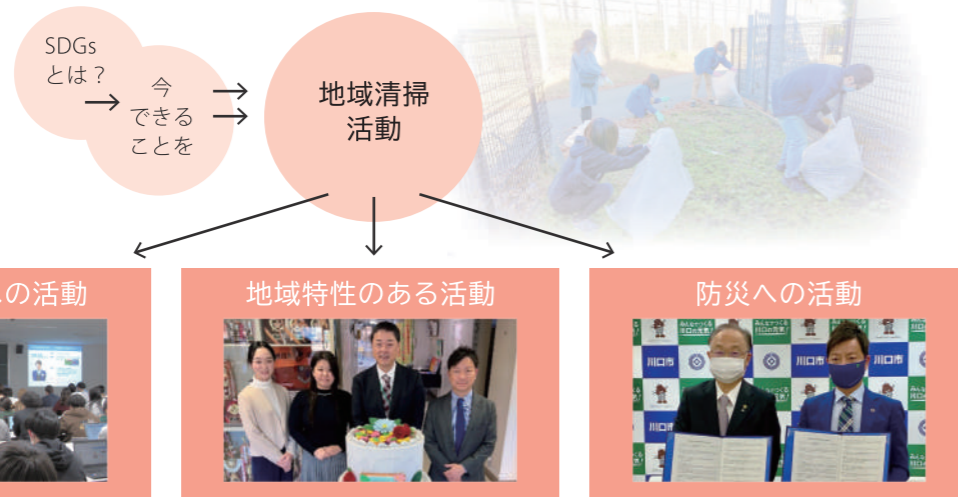


## 地域との共創と次世代育成

— 小さな一歩から広がるつながりと未来 —

和光紙器のSDGs活動は、「SDGsとは何ですか？」という問いから始まりました。当初は知識も経験もない中で、何がSDGsの取り組みなのかすら分からず、手探りの状態でした。そんな中でも、「今できることから始めよう」という思いからスタートしたのが、地域でのクリーン活動です。各拠点で定期的の実施してきたこの活動は、今も継続されており、社員一人ひとりが地域とつながるきっかけとなりました。継続する中で、自治体や地域の方々

との新たなつながりが生まれ、その輪はやがて次世代育成支援（支援学校連携・出前授業など）や、地域特性を活かした防災活動（防災協定、防災グッズの開発など）へと広がっていきました。私たちは、SDGsの活動とは「特別なこと」ではなく、日々の行動を持続することで“できること”が自然に増えていくものだと実感しています。そしてその積み重ねが地域との信頼を育み、未来へつながる社会を形づくっていくと信じています。

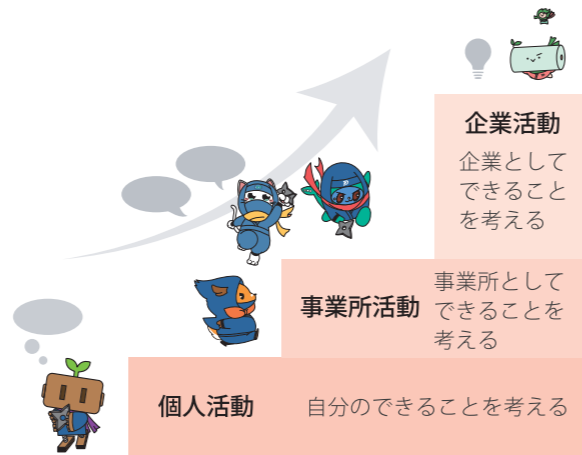


### ◆和光紙器のSDGs活動の進め方

和光紙器のSDGs活動は、個人の気づきや行動から始まり、事業所単位、そして企業全体へと広がる段階的な取り組みです。はじめから大きな目標を掲げるのではなく、“自分たちにできること”を無理なく続けることを大切にしています。小さな行動を持続することで、やがて大きな変化へとつながっていきます。



各事業所で行われるSDGs勉強会の様子



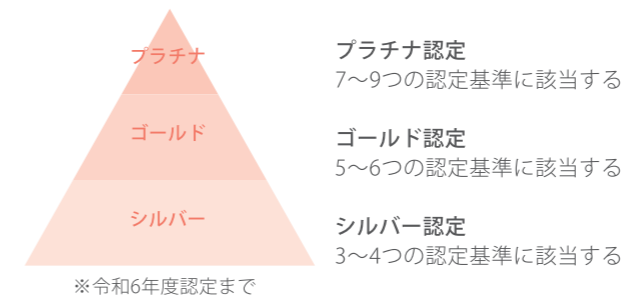
2024年SDGs個人活動表彰式

年末に行う「私ができるSDGs活動」での個人発表会の様子

### ◆「私ができるSDGs活動」発表会と表彰式

— 一人ひとりの思いが、会社全体の取り組みにつながる —  
和光紙器では、毎年年末に「私ができるSDGs活動」をテーマとした個人発表会と表彰式を開催しています。この取り組みは、従業員一人ひとりが自分の立場や役割から「自分にできること」を考え、実際に取り組んだ内容や工夫を発表する場です。活動の大小に関わらず、日常の中で意識的に行ってきた行動を振り返り、仲間と共有することで、新たな視点や学びが生まれています。2025年の発表会では、「最優秀賞」「取組賞」「アイデア賞」「発表賞」「資料賞」といった多角的な視点で表彰を行い、それぞれの努力と創意を称え合いました。発表会を通じて、「ほかにも自分にできることがあるかもしれない」という気づきが生まれ、次の行動へとつながるきっかけにもなっています。そして2025年より、発表会の事例をまとめた事例集を作成し、社内共有を進めています。この事例集は、2026年SDGsキックオフの場で全社共有を行い、一人ひとりの取り組みを組織全体の学びへと広げ、継続的な進化につなげていきます。

## 多様な人材の活躍の場づくり



和光紙器では、年齢・性別・経験に関係なく、すべての従業員が力を発揮できる環境づくりを進めています。その取り組みが評価され、埼玉県「多様な働き方実践企業」において、最上位であるプラチナ認定を取得しています（令和6年度現在）。この認定は、9つの基準のうち7項目以上に該当する企業に与えられるもので、働きやすさと柔軟な制度づくりの実績が求められます。誰もが安心して挑戦できる職場を目指して取り組みを続けていきます。

## 災害時に備える製品づくりと地域連携

### ◆従業員と共に考える防災グッズ

和光紙器の防災グッズは設計など専門の部署など問わず、従業員参加型で開発を進めています。使う人、そして管理する人のことを考えて開発を進めています。



### ◆地域との防災協定

和光紙器では、埼玉県川口市、三重県鈴鹿市、新潟県柏崎市と防災協定を結んでいます。また、その段ボール材料確保のために協力会社様とも防災協定を独自で結んでいます。





# 誠実で強い 企業体制をつくる

BCP・ISOによる信頼性ある企業運営と品質・環境マネジメントの継続!



## BCP(事業継続計画)の整備

事業継続計画  
基本方針

1. 従業員（家族）の安心・安全
2. 顧客からの信用（供給責任を果たす）
3. 周辺地域への協力・支援
4. 企業としての競争力を高め、事業継続を行う

和光紙器では、自然災害や感染症などの緊急事態においても、製品の安定供給を継続できる体制づくりを重要な責任と考えています。

その一環として、災害・感染症に負けない事業継続計画（BCP）を策定・運用し、平常時からの備えと緊急時の対応について、社内での共有・訓練を継続しています。

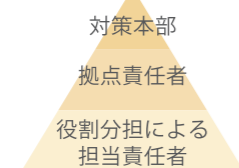
また、2023年（令和5年）には、防災・減災に向けた取り組みを強化するため、「事業継続力強化計画（BCP）」を策定し、中小企業等経営強化法第56条第1項に基づき、経済産業省より認定を受けました。



従業員の安全とお客様への責任を両立するために、これからも実効性のあるBCP体制の整備と継続的な見直しを行ってまいります。



災害対策を統括・指揮するための組織として、代表取締役を統括責任者とし「対策本部」を設置



## 品質・環境マネジメントの見える化



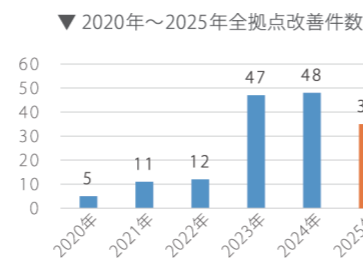
和光紙器では、ISO9001（品質）及びISO14001（環境）の認証を取得し、製品の安定供給と環境負荷の低減を両立する体制を構築しています。方針や目標は文書化し、全拠点・全従業員に共有することで、社内外へ責任ある取り組みを「見える化」しています。今後も、品質と環境に配慮したものづくりを支える仕組みとして、継続的な改善を進めてまいります。

### ◆一人ひとりが進める「仕事の改善」提案

和光紙器では、すべての従業員が“自分の仕事をより良くする”視点を持つことを大切にしています。改善は特別な取り組みではなく、日々の業務の中で気づき、考え、行動することから始まります。

ここでは、各拠点から寄せられた仕事の改善提案件数（2020年～2025年）を可視化しています。このような見える化により、改善活動が年々着実に広がっていることが分かります。

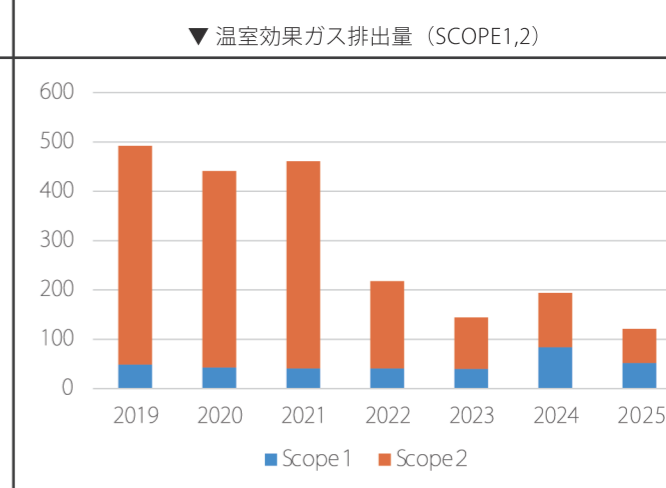
提案の中には、業務効率の向上や安全への配慮、環境負荷の削減に貢献するものもあり、こうした積み重ねが、働きやすさや品質の向上にもつながっています。今後も、一人ひとりが“できること”を見つけて動く文化を育て、全社で改善の輪を広げてまいります。



# 06 データでみるESG

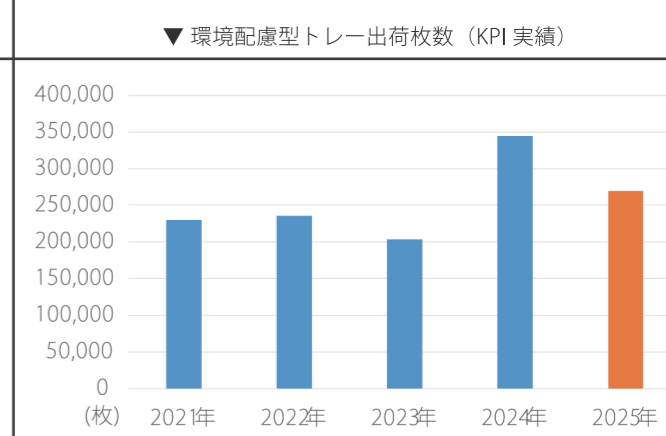
## 温室効果ガス排出量の見える化と削減への取組

和光紙器では、事業活動における温室効果ガスの排出量を適切に把握し、その削減に向けた具体的な行動につなげていくために、CO<sub>2</sub>排出量の見える化を積極的に進めています。その取り組みの一環として、各種認証機関から認定を受けた「Zeroboard」を活用し、算定方法やデータ連携の正確性を担保しながら、温室効果ガス排出量を定量的に把握しています。可視化されたデータは、全社的な環境目標の設定と進捗管理にも活用されています。今後も、製造工程の改善・再資源化・再エネ活用を通じて、環境負荷を最小限に抑えたものづくりを推進してまいります。



## 環境配慮型「ポリエコレン®」シリーズの出荷実績

和光紙器では、環境配慮型包装資材「ポリエコレン®」シリーズを通じて、循環資源とCO<sub>2</sub>排出削減の取り組みを推進しています。2022年には、その取り組みが評価され、埼玉県そな銀行より「サステナビリティ・リンク・ローン（SLL）」の融資実行先として選定されました。また、累計販売枚数を指標としたサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット（SPT）も設定しています。「ポリエコレン®」シリーズの年間出荷枚数を可視化し、環境貢献の広がりや事業の成長を両立する実績として紹介しています。



## SDGsへの取り組みを“見える化”する情報発信

SDGsに関わる日々の取り組みを社内で終わらせるのではなく、社会へ共有することも大切にしています。地域清掃活動や支援学校との連携、勉強会、防災製品の開発など、一つ一つの行動がSDGsにつながっていることを、SNSやホームページを通して“見える化”し、社外にも発信しています。情報発信は単なる広報ではなく、従業員の誇りや共感のきっかけを育むものであり、同時に、地域や取引先との信頼関係を深める大切な架け橋にもなっています。今後もこうした“伝える取り組み”を大切にしながら、SDGsを「行動」と「共感」でつなぐ企業活動を継続してまいります。

▼ SNS 例

▼ QR コード

公式ホームページ

SNS

<p>従業員数</p> <p>女性 41人    男性 45人</p>	<p>管理職比率</p> <p>女性 31%    男性 69%</p>	<p>平均勤務年数</p> <p>男性 13年    女性 10年</p>	<p>有給取得率</p> <p>90%</p>
-------------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------------	-------------------------

### 1.

● 2024年度 社長賞表彰式  
 企業バリューにふさわしい姿勢をもつ従業員を評価するため、社長賞 2 名、社長賞副賞 2 名、新人賞 1 名、改善賞 2 名を選出し、表彰しました。



### 3.

● 「Newsweek日本版 SDGsアワード」学生部門受賞  
 Newsweek 日本版が主催する SDGsアワードにおいて「学生目線で評価」される学生部門賞を受賞しました。



### 2.

● 2024年度 SDGs 個人活動表彰式  
 個人活動発表会より最優秀賞 1 名、取組賞 1 名、アイデア賞 1 名、発表賞 1 名、資料賞 1 名を選出し、表彰しました。事業所活動では鈴鹿事業所が受賞しました。

### 4.

● 職場体験を実施  
 岩槻事業所でさいたま市内の中学生の職場体験、そして鈴鹿事業所では特別支援学校生徒の職場体験を実施しました。



5. ● 段ボール工作実施  
各拠点で幼児から小学生を対象とした段ボール工作体験を実施しました。



9. ● 慶応義塾大学蟹江研究会  
SDGs合同勉強会  
SDGs研究の第一人者である蟹江教授及び学生と合同で、SDGs 勉強会を行いました。



6. ● 川口市に寄贈  
環境に配慮した、避難所用ベットケースを川口市に寄贈しました。



7. ● 出前授業を実施  
「段ボールってなあに」と題し、春日部市立内牧小学校にて出前授業を行いました。



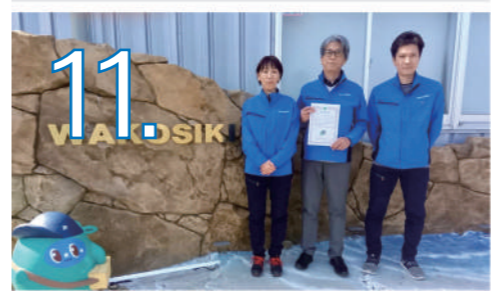
10. ● 地域イベントに参加しました  
「川口市市産品フェア2025」、「鈴コミ防災まつり2025」などに参加しました。



● 特別支援学校での活動の実施  
特別支援学校大宮ろう学園に記念品寄贈、杉の子特別支援学校では設備の設置作業を行いました。



● 優良取り組み企業として感謝状  
「みえスマートアクション宣言事業所」優良取り組み事業所として感謝状をいただきました。



12. ● 間伐材ベンチプロジェクト協賛  
EXPO2025 大阪・関西万博「間伐材ベンチプロジェクト」に協賛しました。



**行動を通して生まれた私の想い**

会社として取り組むSDGs活動を通じて、これまで自分とは関係のないものだと感じていた世界の目標が、身近な課題として捉えられるようになりました。学びや実践を重ねる中で、自分の行動一つひとつが未来をより良くする力につながっていると実感し、SDGsへの意識が大きく変化しました。また、仕事の中で「地域・環境・働き方・つながり」を意識するようになり、日々の業務が社会とつながっていることに大きなやりがいを感じています。日常生活でも募金やフードドライブなど社会貢献に参加する機会が増え、できることから行動する意識が身につく、自身の成長を実感しています。

業務課  
Yoshikazuさん



**「繋がり」を形に。SDGs活動で得た成長**

推進リーダーとして対話を重ね、事業所初となる取り組みを形にできたことは、私にとって何物にも代えがたい経験でした。活動を通じて地域社会との強い繋がりを実感し、日々の業務がより良い未来へ直結している手応えを得られたことも大きな収穫です。SDGsの本質は、世界規模の課題だけでなく、隣の人や家族との小さな絆もすべて繋がっていることだと学びました。周囲の支えの中で得たこの視点を糧に、自分にできることから誠実に取り組んでいきたいです。

業務課  
Yumiさん



**学びと体験を通して広がったSDGsへの想い**

会社では、毎年のSDGs勉強会やSDGs個人発表会をはじめ、海岸清掃のボランティアや福祉施設の草刈りなど、1年を通して普段の生活ではなかなか体験できないさまざまな活動に参加しています。SDGs個人発表会では、他の皆さんの発表を通じて、自分とは異なる視点からのSDGsの取り組みを毎回学ぶことができ、私自身もより広い視野でSDGsを知る良い機会となり、大きな刺激を受けています。これからも、少しでも地球環境への負荷を抑え、人々の生活がより豊かになるよう、SDGs活動に前向きに取り組んでいきたいと思っています。

物流課  
Masakoさん



**次世代へつなげたい想い**

SDGs活動に取り組む中で、さまざまな経験を通じて自分自身が成長できたと感じています。社内勉強会では、意見交換を通じて皆さんの考えを知り、多様な視点を持つことの大切さを学びました。また、地域活動では子供達と一緒にものづくりに取り組むなど、これまで接点のなかった方々と出会い、協力しながら参加できたことが、私にとって大きな刺激となりました。推進リーダーになりたての頃は不安もありましたが、周囲の支えのおかげで役割を務めることができ、感謝しています。今後は、経験を次の世代へ伝え、行動を継続していくことが大切だと考えています。

製造部  
Naokiさん



**一步踏み出して見えたつながり**

最初に感じたのは、「SDGsとは何だろう」という戸惑いでした。何をすれば良いのかも分からない中で、まずは個人でできることとして、ゴミの分別から取り組み始めました。年々活動を続けるうちに、川のクリーン活動やフードドライブなどを通じて地域の方々と交流する機会が増え、そこに喜びを感じるようになりました。また、勉強会を通じて職場内でのコミュニケーションの大切さ、特に連携することの重要性を学び、それが日々の仕事にも活かされていると感じています。今後も、地域の方や職場の仲間力を借りながら、共に成長していけたらと思います。

物流課  
Hajimeさん

08

SDGsへの想い 従業員の声

**設計課 Takenoriさん**  
**発表と学びを通じて深まった意識**  
初めてSDGsという言葉聞いたのが、会社での勉強会でした。その頃は、世間にSDGsが広く認識されていない時期だったと思います。早めにSDGs活動を積み重ねてきたことで、社会や環境に与える影響の大きさを実感しました。SDGsの個人発表会では、単に取り組みを発表するだけでなく、資料のまとめ方や発表の工夫など、苦手な部分の克服にも大きくプラスとなりました。また、他の方の発表を聞くことで、SDGsに対するさまざまな考え方に触れ、今後の取り組みの参考にもなりました。こうした学びを通じて、日々の意識づけが日常生活の中でも自然と行動につながるようになりました。



**製造部 Keikoさん**  
**SDGs活動を通じて感じた人のやさしさ**  
SDGs活動に取り組むようになり、日常生活の中でも、自分の行動一つひとつが環境を良くし、未来へとつながっていると感じるようになりました。推進リーダーを担当したことで、勉強会の司会や準備を通じて多くの学びを得ました。また、工作教室や支援学校でのボランティア活動では、周囲の皆さんと協力しながら子どもたちに喜んでもらえる経験ができ、貴重な時間となりました。人前で話す機会が増え、話す力や対応力が身についてきたと感じています。一人では成し遂げられないことも多くありましたが、周囲の支えの中で人のやさしさを感じ、心から感謝しています。今後も多角的な視点を大切にしながら、自分の可能性を広げていきたいと思っています。



**製造部 Yuuyaさん**  
**耳を傾けることで生まれた気づき**  
SDGs活動を通じて、物事を一つの視点だけで判断しない姿勢が身についたと感じています。意見交換の場では、相手の意見に耳を傾け、否定せずに受け止めることで、新しい発想や学びが生まれることに気づきました。その結果、周囲の意見を尊重しながら柔軟に物事を考え、行動できるようになり、自分自身の成長につながっていると実感しています。また、今後もSDGs活動に対して難しく考えすぎず、前向きに参加することを大切にし、視野を広く持ちながら、周囲の意見や新しい考えに触れ、自分にできることを積極的に行動していきたいと思っています。



**業務課 Kotomiさん**  
**小さな「できること」から生まれたやりがい**  
入社してからSDGs活動に取り組むことは、私にとって貴重な経験の積み重ねとなっています。一人ひとりが身近な小さな「できること」から取り組むことで、その行動が枝分かれするように広がり、結果が生まれていくことを実感しています。活動の中では、これまで関わることのなかった方々へお願いをする機会もあり、それも大切な経験となりました。自分から取り組んでいる活動でありながら、感謝の言葉をいただくことも多く、やりがいを感じています。また、発表会では多様な取り組みを知り、「自分にもできそうだ」と感じる学びがたくさんあります。取り組みを続ける中で習慣化されたことも増えてきました。今後も、身近なことから家族も含めてSDGs活動に取り組んでいきたいと思っています。



**製造部 Hiroyukiさん**  
**自分を成長させてくれたSDGs活動**  
SDGs活動に取り組む中で、以前よりもコミュニケーションが取れるようになったと感じています。会社内でSDGs活動を始めた初期に推進リーダーを務めた際は、何をすべきか、全員が参加し楽しめる活動にするにはどう進めるべきかと悩む時期もありました。しかし、勉強会を通じて意見を聞き、話す経験を重ねたことで、柔軟な考え方ができるようになりました。また、支えてくれた相方のフォローから心の温かみを感じ、SDGs活動の根底には助け合いの大切さがあることに気づきました。昨年は、SDGs活動で得たコミュニケーション力を活かし、介護施設の祭事イベントにボランティアとして参加しました。こうした行動力やコミュニケーション力は、SDGs活動を通じて培われた学びと成長の結果だと感じています。





## マスメディアへの露出

- 『JAPAN GOV』 (2025年2月18日付)
- 『Newsweek 日本版』 (2025年4月1日付)
- 『めっちゃすずか!』 (2025年6月9日生出演)
- 『SAITAMA 社会貢献プロジェクト』 (2025年8月28日付)
- 『りそなーれ』 (2025年9月号)
- 『広報かわぐち』 (2025年10月号)
- 『Newsweek 日本版ネット版』 (2025年12月10日付)



## 「私たちだからできること」の社会発信

和光紙器では、企業の実践を社会と共有することも大切な責任と考えています。その一環として、さまざまなステージでサステナブル経営や環境配慮型ものづくり、サーキュラーエコノミーの重要性を発信してきました。2025年は「環境フォーラム in かわぐち」「エコプロ 2025」「慶応義塾大学蟹江研究会合同勉強会」「職場体験や出前授業」などで講演を行いました。



## 共創イノベーション

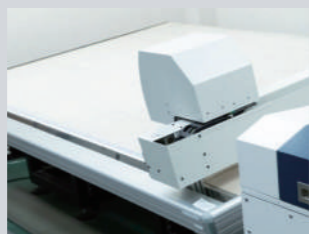
和光紙器では、従業員参加型で防災や医療分野に関連する製品開発に取り組んでいます。2025年には、災害時のペット避難問題に着目し、避難所用ペットケージ『わんボールケージ』を開発・販売しました。本製品は、業界の枠を超えた連携によって生まれた共創イノベーションの一例です。また、目白大学耳科学研究所クリニックとの共同開発により、めまい発作時の状態記録を補助する専用ゴーグル「アイグル®」の開発にも参画しています。段ボールを活用した環境配慮型ものづくりの知見を、異分野の専門家と掛け合わせることで、実用性と社会性を備えた新たな価値を創出しています。



導入設備



高性能プレス機2台：  
曙機械工業製の OP シリーズ



サンプルカッター：  
日本製図器工業株式会社製



太陽光発電システム

## 岩槻工場 外構工事完成!



## 受賞・認定 (2020年以降)

### 2020

新潟県柏崎市と  
災害協定締結

# 2020

「Polycolene®」  
川口 i-monoブランドに認定

埼玉県SDGs取組企業として認定

### 2021

「WAKOH式段ボールベッド」  
防災グッズ大賞受賞

埼玉県SDGsパートナー認定

「避難所用WAKOH式  
段ボールパーテーション」  
川口新商品等  
開発振興奨励制度受賞

### 2022

「川口元気経営大賞  
CSR・SDGs 推進賞」受賞

三重県 SDGs  
推進パートナー認定

埼玉県川口市と  
防災協定を締結

「はばたく2021  
中小企業・小規模事業者  
300社」受賞

三重県鈴鹿市と  
防災協定を締結



本社/岩槻工場 彩の国工場認定



第一回彩の国 SDGs 技術賞受賞

彩の国埼玉環境大賞受賞



「埼玉ちゃれんじ企業  
経営者表彰」特別賞受賞

### 2023

「多様な働き方実践企業」  
プラチナ企業認定

事業継続力強化計画 (BCP) 認定

「健康経営優良法人2023」  
中小規模法人部門に認定

### 2024

Newsweek 日本版  
「SDGsアワード」  
パートナー企業認定

経済産業省「サーキュラー  
パートナーシップ」参画

「健康経営優良法人2024」  
中小規模法人部門に認定

### 2025

パートナーシップ  
構築宣言を公表

「健康経営優良法人 2025」  
中小規模法人部門に認定



彩の国埼玉環境大賞奨励賞受賞



「三重のサステナブル  
経営アワード」受賞



Wako & Ueno Hai Phong Co.,LTD  
「2024年FDI優良企業TOP20認定」

「日本サステナブル  
ビジネス認定制度」にて  
BRONZE 認定



「Newsweek 日本版 SDGs  
アワード2024」学生部門賞受賞

みえスマートアクション  
宣言事業所：  
優良取り組み事業所